

□ 書評 □

加倉井周一・清水夏繪(編)

神経・筋疾患のマネージメント

—難病患者のリハビリテーション—

平井俊策

(東京都立神経病院院長)

現在数多くの疾患が難病の指定を受け、医療費が国庫負担されるとともに、その成因や治療に関する研究も進歩しつつある。しかし、特に神経・筋疾患では、難病でありながら指定されていない疾患も多い。これらの疾患は有効な治療法がないだけに、リハビリテーション、ケアを含むマネージメントの重要性が非常に大きい。従来、このような神経・筋難病のマネージメントに焦点を当てた書物はなく、その出現が望まれていたが、このたび加倉井周一教授(東大リハ科)と清水夏繪教授(帝京大市原病院神経内科)の編集により発刊された「神経・筋疾患のマネージメント—難病患者のリハビリテーション」は、このような要望に応えるものといえよう。

本書は、まず総論でリハビリテーションの立場からみた神経・筋疾患、神経・筋難病に対する厚生省研究班の業績、地域での取り組み、心理面への配慮、支援機器などを解説した後、各論として厚生省指定の難病を含む32の神経・筋疾患について簡潔にそのポイントを述べるとともに、特にマネージメントに重点をおいて記述してある。一読して気がつくのは、とかく神経・

筋疾患は分かりにくいとして敬遠されがちなのに、説明が簡にして要を得ているので、専門でない人にも分かりやすく、さらに本書のレイアウトが読みやすさを助けていることである。リハビリテーションや在宅ケアが特に問題となる疾患については、その項を別の執筆者が記述するという細かい配慮も払われている。したがって、これらの疾患についての専門家でなくても、手早く各疾患の概要を知り、そのマネージメントの要点を理解する上で大変貴重な書物である。特に最近では、これらの疾患が在宅医療の対象となることが多いので、在宅医療に携わる医師にとっては非常に役立つ本であるといえる。

本書が将来改訂される際に望むとすれば、厚生省で指定されている難病とそうでない疾患とを分けて記載してある方が便利ではないかと思われること、リハビリテーションに関する記載の少ない疾患については、今後のリハビリテーションの進歩に合わせて是非充実させていただきたいこと、各論のなかに指定難病であるアミロイドポリニューロパチーを加えていただきたいことである。

QOLを踏まえた医療が重視され、在宅医療が普及しつつある現在、本書の出版はまことに時機をえたものであり、神経・筋難病の医療・福祉に携わる医師や関連する各領域のスタッフの方々に是非ご利用をお薦めしたい。

(B5 頁260 写真24 表73 定価(本体7,000円+税)〒400 1997 医学書院・刊)